

(公社)日本産業退職者協会広島支部

〒730-0022 広島市中区銀山町3-1 ひろしまハイビル21 16F リージャス・ジャパン広島事務所内

日退協ホームページアドレス <https://jariphiroshima.sakura.ne.jp/>

日退協広島支部は私の心の年金機構



広島支部
歴史探訪会 代表世話人
荒木 勲

日退協広島支部は創立30周年を迎えました。私はその半分に当たる15年間ご厄介になっております。

長い会社勤めを経たのち、定住の地として、かつて6年勤務した広島と決めたものの、趣味も無く企業戦士を自負してきたつけが回ったのか、仕事からの解放で得られた一時の安堵も、世間から隔絶された自閉的感情に襲われる日々を過ごしていた。

さりとして仕事関係者を除き当地に友人、知人も不在では如何ともし難く、そこで、先輩の助言による生涯学習をキーワードに、不慣れなパソコンに向かって、一緒に語りそして遊ぶ仲間を求めて一生懸命検索を続けてみました。そこで最初に辿りついた先が、県が支援をしていたセカンドライフ倶楽部(現在解散)だった。次にシルバー振興会の人生游悠塾へ入会しゴルフ、ウォーキング、講演会等で一時の安らぎを得ていたある日、セカンドライフHPにあったリンク先をクリックした時、日退協広島支部HPが目飛び込んできた。内容を見ると魅力ある同好会が多く、しかも活動内容に共感を覚え即入会を決意したが、当時は紹介者が不可欠の入会条件で、しかもHPに入会案内も無く、また申込書も入手できずアクセスに難儀したが、当時の梶田支部長に紹介者をお願いし何とか入会を果たすことが出来ました。

入会後は早速二木会にて自己紹介を行った後、暫時各種同好会等へ参加し新しい仲間も得て楽しく過ごしていくの間にか15年を経過しました。

あの時の出会いが無ければ、果たしてボケもせず今の健康が保たれていたか甚だ疑問に思われて

なりません。そこでつくづく痛感することですが日退協広島支部は私にとって「心の年金機構」であり、実に得難い存在となっていることです。

しかし、今日気がかりな事は我が年金機構が岐路に立たされている事です。それはこの数年会員の減少と、かつて賑わいを見せた同好会及び事業への参加者が少なくなっていることです。この件は会員の高齢化、趣味の多様化等の要因と今日のコロナ禍も影響していると思われませんが、何れ支部としての対応策が図られ再起動なされると思います。

我が日退協広島支部は不滅であり、更に力強く40周年へ向かって前進し、多くの年金希望者の受け皿となって欲しいと思っております。

2021年5月二木会ショートスピーチ抄録

最高齢スイマー 長岡三重子さん

講演者 黒坂 貞子



長岡三重子さんは、100歳の時に出場した日本マスターズ水泳大会で背泳ぎ1500メートルを最高齢で完泳し世界一にされた方です。80歳から水泳を始めました。80歳から始めたことが素晴らしいことだと思います。

長岡さんのプロフィールを紹介します。1914年に山口県周南市に生まれ、徳山女学校を卒業しました。23歳の時に山口県田布施町の藁工芸品の卸問屋長岡家に嫁ぎます。その後、二人の男の子を授かり、専業主婦として一家を支えました。53歳の時に夫が亡くなり、藁工芸品の卸問屋を引き継ぎ、約40年間暖簾を守り続けました。55歳から「能楽」を始めましたが、能をやるうちに膝を痛めてしまいます。その膝を治す為に始めたのが水泳だったのです。85歳の時に日本マスターズ水泳大会に出場し、5本の日本新記録を達成しました。88歳で出場したニュージーランド大会で銅メダル、89歳で出場したイタリア大会で3つの銀メダルを獲得しました。でも銀メダルでは不満で、

金メダルが欲しいと、90歳から水泳コーチについて、猛練習しました。92歳で出場したサンフランシスコ大会で念願の金メダルを獲得します。105歳の時にすべての競技から引退しました。それまでは泳いでいました。

令和3年1月19日106歳で、残念ながらお亡くなりになりました。

「人生の挑戦に終わりはない」そうです。

(留学生との交流会 世話人)

■ テニスを誘っていただいた先輩に感謝!! ■

石田 信夫

「石田さん、昼休みにテニスをしませんか?」と約30年前に昔の上司から声を掛けていただきました。それがテニスとの縁です。

当時は勤務先にテニスコート(6面)があり、盛んでした。しかし、もともと私は運動が苦手で積極的にやろうという気持ちにはなりませんでしたが、テニスを誘っていただいた上司の人柄に惹かれ勤務先のテニス仲間に加わりました。当初は、昼食もそこそこにテニスコートに駆けつけました。

最初は中々上達しなかったため、止めようかなと悩んでいた頃、上司から「うまくやろうとは思わず楽しむテニスをしてはどうですか」と言われ、もやもや感が吹っ切れました。

その後、なかなか上達はしませんでした。テニスをするうち沢山の方と交流、親睦を図ることができました。その後、転勤等もあり、テニスとは遠ざかったままでしたが、広島に帰り、テニスができることを大いに喜びました。

退職後も日退協のテニス同好会の皆さんと現在



も楽しんでいきます。いつも思うことはテニスは高齢でもできることです。現在、日退協テニス同好会には80歳以上の方が、4名いらっしゃいます。今も、テニスをやるきっかけを与えていただいた当時の上司に感謝!感謝!です。

(テニス同好会 世話人)

|||||| 会員拡大を目指して |||

新延 伸雄

囲碁同好会の現状はコロナ禍以降、例月40名前後あった参加者がここ最近では6割程度の25名前後で推移している。会の存亡に関わる危機的状況であると言っても過言ではない。コロナの影響も大きいが必ずしもそればかりではなく、支部全体の



会員数減少とも連動する何らかの要因があるように思えて仕方ない。

ここ数か月、事態打開に向け世話人会で話しあって来たが結論としては「守る」より「攻める」ということで徹底した新会員獲得運動を展開することを確認した。具体的には目標を10名とし22年の1月～3月を強化月間と位置付け報奨制度も設ける中、運動を具体化していくことを決定した。

幸いにも囲碁同好会の会員は当会のみならず様々な囲碁サークルで活動しており会員候補の市場は十分にあることから、それなりの成果も期待できるものと考えている。ただ彼らはそれ以外にあまり興味はなく他の事業・同好会には関心を持たないことから当面は支部の力とはなりえないという難点もあるが、まずは支部会員を増やすことが第一義であり、後は時間を掛けて他の支部活動参加への働きかけを行って行くことが肝要であると思う。

今回の取り組みが糧となり支部全体に横展開が図ることが出来れば幸いである。そのためにも目標達成に注力し、過日の例会の賑わいを取り戻すべく今回の取り組みを進めて参りたい。

(囲碁同好会 世話人)

|||||| コロナ下でも川柳句会を |||

松井 哲夫

がんす川柳会は、毎月、広島市市民交流プラザで例会を開催している。1週間前に課題句3句と自由句1句を代表宛投句(メールやFAXで送信)する。代表から返信された「句に番号を付した選句票」で、各自優れていると思う句を事前に投票してお

き、例会で得票数の集計結果が発表される。票数の多い句から選んだ理由とか句の出来栄や感想等を全員が順番に述べあう。

『すっぴんで走るナースの美しさ』の句に「さぞ親切にして貰うたに違いない」と面白く茶化す人がいる等、丁々発止会話が飛び交いコミュニケーションを深めている。このやり取りが実に面白い。

予想外の興味深い句の思い付きに、嬉しい気持ちにさせられることもある。句は、投票数の多い順に特選等の6段階に分け翌月会報に掲載される。

最近、コロナの感染で各種行事が自粛・中止となり手持ち無沙汰を感じているが、がんす川柳会は例会が中止になる時は、紙上例会に切り替えて次のやり方で活動を継続している。本来は例会上で述べる感想等コメントを各自2句宛投票番号に添えて代表に送信し、それをまとめた書面が全員に返信



されて、自宅で楽しめる。前述のやり方にひと手間加えることで、例会に近い形で参加出来る。

一度も途切れずに句会を継続し、会報も配布され、お陰でコロナ下でも楽しめている。

(がんす川柳会 会員)

■ エスキーテニスをやってみませんか ■

河野 次郎

いち、にい、さん、し・・・エスキーテニス同好会の例会は準備体操の掛け声で始まります。インストラクターはエスキーテニス連盟の元理事で、大学生を指導されていた長尾千恵子さんです。私共エスキーテニス同好会発足当時よりボランティアで指導していただいております。準備体操が終わってまず初めにサーブ、レシーブ、ラリーの基本練習を行い、終わるとじゃんけんでパートナーを決め、ダブルスの試合形式の練習を、順次組み合わせを替えながら行います。たっぷり2時間、何回かの休憩をはさみながら行いますが、屋内コートなので天候や季節に左右されずほどよい汗で充実感が味わえます。我々高齢者に向けたスポーツと言ってよいと思います。

エスキーテニスは1945年原爆の廃墟の中、広島で生まれたスポーツで、わずかなスペースとわずかな費用で気軽に楽しむことで職場や学校で



次第に普及してきましたが、全国的にはマイナーなスポーツであり広島以外ではあまり知られておりませんが、全国大会や中国地区大会も行われています。2019年の中国地区シニアの大会で当同好会の今岡・若宮組が出場し、Cクラス2位の成績をおさめました。当同好会は2012年6月6日(水)に14名で第1回例会を行い、9年の間に今年の8月13日(金)の例会で208回を重ねました。

発足当時からの会員は少なくなりましたが新しい会員も増えてきました。現在の例会参加者は平均14～15名で推移しております。

(エスキーテニス同好会 代表世話人)

■ 「グラウンドゴルフを楽しむ会」の今 ■

濱田 寛

「グラウンドゴルフを楽しむ会」は昨年度は1回のみ開催(11月に北広島町の芸北オークガーデンにて)しましたが、今年度は年5回の開催予定を全て中止としました。

コロナ禍の影響は大きいものでした。バスでの移動が必須である事や、県外での活動が年5回の内3回はあることがネックとなり、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が各地に発令されている中での実施は難しいと判断しました。又、大会が終わった後の宴会も、28人程が一堂に会して行うことになる為、これも中止の一因です。

グラウンドゴルフの良い点は、一般的なゴルフが体力的に難しくなった方にも無理なく気軽に楽しんで頂けることです。3ラウンド回りますが、2ラウンドが終了した時点で休憩を取ります。3ラウンド回っても2時間程です。日退協のグラウンドゴルフは、大会後に風呂にゆっくりと浸かり、

その後には宴会です。帰りは近くの道の駅等に寄り、買い物をします。それでも17時頃には広島駅に着くという非常に時間に余裕がある同好会です。



感染者数が一気に減少し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除されてはいますが、感染拡大の第6波を心配することなく、来年4月には大会が開催できることを切に願っています。

(グラウンドゴルフを楽しむ会 代表世話人)

お礼のリレー

岡本 典男



昭和52年、入社4年を経ている私は北陸市場の開拓を命じられ新設の金沢営業所に転勤。赴任した年はサンパチ(昭和38年)の豪雪以来の大雪で山陽育ちの私には全く初めての経験で、戸惑う事の多い日々であった。着任後、見知らぬ地方での営業は苦勞の連続で、心細く不安な思いを随分とした記憶がある。

ある日いつものように営業活動を終えて夜遅く雪道を急いで走っていた。突然、車が止まった。雪の上に乗上げ車体が浮き、動かなくなった。知らぬ土地で人家も見当たらずどうしたらよいものかと途方に暮れた。今のようにスマホもなく、SOSの術も全くなく、頭の中は真っ白。泣けるものなら泣きたい気分であった。

暫く動かない車を何とか脱出させようと試みていたら一人の年配の男性が現れた。事情を話し、助けを求めた。2人で約1時間の奮闘の結果、私の車はやっと再び雪道を走ることができた。

その男性にお礼がしたく連絡先を尋ねた。「礼なんぞいらん。礼がしたければ、次に何処かで誰か困っている人を見たらお前が助けてやれ、それがお礼だ。」何と素晴らしい言葉かと感動した。

今でも北陸の便りを聞く度にあの寒い夜の心温まる出来事を思い出す。まだ充分にお礼のバトンを渡せてないと悔いている今日この頃である。

(事務局 副支部長)

広報の窓

行事・同好会参加人数 令和3年7月～令和3年10月

		()は家族会員再掲	
◎世話人交流会		人	(人)
◎常任幹事会		人	(人)
◎幹事会		26人	(0人)
◎30周年準備委員会		50人	(0人)
◎二木会		100人	(0人)
◎留学生との交流会	会員	0人	(0人)
	留学生・他	0人	(0人)
◎ボランティア委員会		0人	(0人)
◎ゴルフ同好会		55人	(1人)
◎テニス同好会		88人	(10人)
◎釣り同好会		0人	(0人)
◎四風会 月例・大会		0人	(0人)
◎社会見学会		38人	(6人)
◎木 楽 会		0人	(0人)
◎朱 樹 会		0人	(0人)
◎歴史探訪会		0人	(0人)
◎四季の会		0人	(0人)
◎園芸・盆栽同好会		13人	(1人)
◎囲碁同好会		97人	(0人)
◎写真を楽しむ会		21人	(0人)
◎旅を楽しむ会		0人	(0人)
◎謡を嗜む会		8人	(0人)
◎まほろば句会		0人	(0人)
◎がんす川柳会		52人	(4人)
◎山を歩く会		40人	(2人)
◎写画一る会		15人	(2人)
◎男性料理教室		0人	(0人)
◎PC・DCを楽しむ会		45人	(0人)
◎PCDC共催写真撮影会		15人	(0人)
◎陶芸同好会		72人	(0人)
◎詩吟を楽しむ会		16人	(0人)
◎卓球クラブ		85人	(8人)
◎女性パラエティ同好会		0人	(0人)
◎G・ゴルフを楽しむ会		0人	(0人)
◎エスキーテニス		71人	(2人)
◎演歌ミニ道場		0人	(0人)
◎なば愛好会		0人	(0人)
		831人	36人
◎切手収集	累計件数 2909件	ベルマーク	累計件数 487件
◎幹事会	7月30日		
◎30周年記念事業	7月30日、10月21日		
◎運営・事務局会議	7月1日、10月7日	Skype会議	8月5日

編集後記

コロナ関連用語が氾濫している。パンデミック、クラスター、ソーシャル・ディスタンス、デルタ株、PCR検査、緊急事態宣言、濃厚接触者、交差接種等聞き慣れないたくさん新しい言葉が次々と洪水のように登場し、困惑している。

不安、心配が続く中、我々の生活様式も変化してきている。自分自身も含めストレスが溜まり、モチベーションの低下が気になる。

マスクを外し、肩を寄せ合い、笑顔で美酒を酌み交わして語り合うというのはいつの日かと夢見ることしきりなり。時間が解決してくれることを信じるしかないのかと一日千秋の思いである。

限りある高齢者の人生だ。早く！もう一度！また再び『交流・交歓』を合言葉に『いきいきシニアライフ』を楽しみたいと祈るばかりだ。

(N・O)